

角文 エントランスに「モバイル・ミュージアム」



ネパールの獅子頭を解説する藤谷氏

仮面コレクション展示

総合建設業の角文(本社刈谷市泉田町古和井、鈴木文三郎社長)は、文化活動支援の一環として本社1階エントランスの一角を「オフィス・モバイル・ミュージアム」用スペースとして提供開始した。仮面の収集家として知られる藤谷幸弘氏(豊田高専名誉教授)秘蔵のコレクションを約2カ月間、入れ替えも行いながら展示する。(刈谷)

「モバイル・ミュージアム(移動博物館)」は、個人が秘蔵する美術品や骨董(こつとう)品など普段、日の目を見ることのない収集品を、展示施設以外で期間限定展示する試み。多様な人々が鑑賞できる機会を設けるのが狙い。教育・文化施設などでは徐々に浸透しているが、企業ではまだ珍しい。

今回のテーマは「不二真直民俗仮面コレクション」。 「不二真直(マスク)」は藤谷氏の「収集家ネーム」で、同氏は専門とする建築物の研究で世界各地を視察する傍ら、アジア山岳地帯やアフリカ、日本国内などの仮面約180点を収集。

特に宗教儀礼や呪術で実際に使用されていた「本物」を厳選し、第1期として11点を展示に供している。

目玉はネパールで2000年ほど前に作られたという「獅子頭」。激しく舞う魔よけの儀式で使われていた実物で、「日本の獅子舞の源流と考えられる」(藤谷)貴重なものであると同時に、特に知識のない人が見ても強い印象を与える個性派の仮面だ。このほか、アフリカ5部族の仮面5点と、国内品から「天狗」5点を展示している。

「ミュージアム」は12月中旬と同月末に入れ替えを行い、1月中旬まで実施する予定。